

トマトキバガの生態等

○生態

- ・ 成虫は翅（はね）を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長約5mm）である（写真1）。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。
- ・ 幼虫の体長は終齢で約8mm、体色は淡緑色～淡赤色、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に、細い黒色横帯がある（写真2）。
- ・ 幼虫は特に若い葉や生長点を好んで食害する傾向があり、生長点を食害されるとひどい時には芯が止まり枯れあがる場合がある。
- ・ トマトの茎葉では、内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。
- ・ 葉の食害は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。本虫の食害は面状であり、ハモグリバエ類の線状の食害と区別できる（写真3）。
- ・ 果実では、表面に数mm程度の穴を空けて幼虫が侵入する（写真4）。

○被害を受ける作物

- ・ トマト、なす、ピーマン、ぱれいしょ等のナス科植物が主要である。
- ・ マメ科のいんげんまめでも、被害を確認されている。



写真1 トマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ幼虫



写真3 葉の食害



写真4 果実の食害